

ドRAFT

本店レク 議事メモ

日時：平成 23 年 4 月 8 日（金）10:00～10:05

場所：東京電力本店 1 階 101 A B 会議室

先方：記者約 40 名（カメラ 6 台）

当方：広報部

配付資料：

- ・福島第一原子力発電所 1～3 号機プラント状況（3 月 11 日 19 時 30 分～13 日 7 時 30 分）

冒頭、XXXXXXXXXXから、昨晚の宮城県沖地震の影響に関する概要報告（大きな被害の状況無し）、プラント状況のデータについて、これまで配布した資料に 3 月 13 日午前 8 時以前のデータが含まれていなかったことに関して説明。

Q. これまでの配布資料に 3 月 13 日午前 8 時以前のデータを反映させていなかったことに関しては、結果として「隠していた」と見られかねないがどうか。

A. 当初、地震直後のデータが欠損していたが、当時のデータが分かった時点で配布資料の中に反映すべきであった。しかしながら、決して隠していたわけではなく、当該データは国にも報告し国のホームページ上に公表されており、お問い合わせいただければ回答させていただいている。

Q. 1 号機の炉水位が 11 日 21 時 30 分時点で +450cm まで下がっているが、これをどのように評価するのか。

A. 確認させていただく。

以上

トヨタ

本店レク 議事メモ

日時：平成 23 年 4 月 8 日 (金) 10:25~10:35

場所：東京電力本店 1 階 101 A B 会議室

先方：記者約 40 名 (カメラ 6 台)

当方：広報部

配付資料：無し

冒頭、から昨夜発生した地震の影響の追加情報 (設備の被害状況等) について説明。

質疑：

Q. 窒素注入は継続しているのか。

A. 地震による影響はなく、現在も継続中。

Q. 止水作業は継続しているのか。

A. 午前 8 時 8 分頃、作業を再開している。

Q. 集中環境施設の残量は。

A. 確認させていただく。

Q. 鉄板の挿入作業はまだ実施しないのか。

A. 鉄板の挿入作業は、止水剤の作業を終えてから実施すると聞いている。

Q. 地震による建物等への影響は。

A. 現時点で被害は確認されていない。

以上

ドゥラット

H23.4.8②議事メモ (前半) .doc Last printed 4/8/2011 2:18:00 PM

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 4 月 8 日 (金) 11:20~12:00

場所：東京電力本館 3 階 大会議室

先方：記者約 40 名 (カメラ 6 台)

当方：原子力設備管理部

本店広報部

配布資料：

- ・東北地方太平洋沖地震による影響などについて (4/8 午前 9 時現在)
- ・福島第一原子力発電所 1~3 号機プラント状況
- ・福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況

質疑：

Q. 1 号機において、D/W 4/8 6 時の CAMS データが上昇しているがなぜか。

A. 調査中。サブチャン側の CAMS のデータは落ち着いているので当該計器の問題ではないかと考えてはいる。

Q. SF への放水等、予定どおり本日作業を行うのか。

A. 予定通り行う。なお、夕方、3 号機にコンクリートポンプ車で放水予定。

Q. 5・6 号機のサブドレン、集中ラドの放水状況は。

A. 今朝 9 時の時点で、5・6 号機のサブドレンは 1,100m³ (残り 400 m³)。集中ラドは昨日夕方で残り 300m³。この数値から減少していると思うが、確定的な数字は不明。

Q. チッ素注入状況は。

A. 28m³/h で継続実施中。今朝 7 時時点で、180kPa、800m³。

Q. 3 月 11 日~13 日のプラントデータについて。11 日 21 時 30 分の 1 号機の炉水位は低いのではないかと。12 日の

A. 11 日 21 時 30 分時点について。2・3 号に比べて低いが、450mm あることから安定しているとは考えている。なお、水位の違いは、ECCS は 2・3 号機は隔離時冷却系で、1 号機はアイソレーションコンデンサという違いもあるかもしれない。次に、12 日 0 時 30 分時点で 1300mm となっているが、逃がし安全弁が働き水位が上がったと考えられる。さらに、12 日の 7 時頃から水位が下がっているが、アイソレーションコンデンサが機能しなくなったものと認識。

Q. 昨日の地震により、外部電源を喪失した発電所がいくつかあったが、今、1 F において外部電源が喪失したらどのようなようになるのか。

A. 仮設の DG、消防車等があり問題ない。

Q. 地震直後、1 号機は燃料損傷が起こっていたのか。

A. 1 号機はそれなりの水位が保てていることから、地震直後に燃料損傷は発生してい

H23.4.8②議事メモ (前半) .doc Last printed 4/8/2011 2:18:00 PM

ないと考えている。

Q. 集中ラドの水やサブドレン水の海への放水前に、その影響について試算をしているのか。

A. 確認する。

Q. 3月12日、1号機の炉圧が低くなっているのはなぜか。

A. 逃がし安全弁が働き、圧力容器から格納容器に蒸気を逃がしたことが原因と考えている。

Q. 同じく3月12日、1号機の水位が一時的に回復しているがなぜか。

A. 逃がし安全弁が働き炉の圧力が下がると、この圧力に抑えられていた炉水位が上がる。なお、炉の水位が上がるということは安全方向と認識。

Q. 1号機のチッ素注入はアイソレーションコンデンサを使うことが目的か。

A. 従来からお話ししてきた通り、チッ素注入は水素爆発の防止が目的。

Q. アイソレーションコンデンサとは。

A. 原子炉の蒸気を冷やし水にし、原子炉に戻すシステム。

Q. 3月12日に炉水が450mmに下がった理由は。

A. 確認する。

Q. 1号機は、地震当初から燃料が露出しているが、これまでにどのくらい放射性物質が放出されてきたのか。

A. CAMSより1号機の燃料は7割が傷んでいると評価しており、当該損傷燃料由来の放射性物質が格納容器経由、建屋外に出ていると考えているが、その量は不明。

Q. スリーマイルと比べ放射性物質が放出されている時間が長い、その影響をどのように考えているのか。

A. 確かに水位が下がってからの時間は長い、燃料は1200度以下に抑えられていることから燃料の損傷自体は進んでいないと認識。

Q. 通常運転時、炉水位・圧力はどのような状態なのか。

A. 原子炉の水位・圧力ともに一定。水位は1200mm～1300mmと認識しているが、プラント状況の数字との整合性が不明なため、念のため確認する。

Q. 「燃料損傷」とは具体的に燃料がどのような状態になっているのか。燃料の形状は保たれているのか。

A. 現状は、具体的な形状は不明である。1,200℃程度で被覆管が脆くなるので、その程度であれば被覆管にクラックが入る、多少変形し、中のガスが出るなどするが、ペレット自体が溶け出すのは2,800℃以上なので、ペレットが溶け出している可能性は低いと思われるが、確定的な話はない。

4

H23.4.8②議事メモ (前半) .doc Last printed 4/8/2011 2:18:00 PM

Q. 3月11日21時30分の1号機の炉水位が+450mmになった経緯は。

A. 確認させていただく。

Q. 同時期の2、3号機の水位が高いのはECCSが稼働したからか。

A. その通り。

Q. では1号機の水位が低いのはECCSが稼働していなかったということか。

A. ECCSが稼働すると、注入された水が蒸気になり圧力が上がるため、自動で逃し安全弁が開き、蒸気を出して圧力を下げる。出した蒸気の水を注入して水位を保つことになる。

21時30分の段階では、2号機や3号機と比べると1号機の水位は低いものの、水位は保てているのでそれ程危機的な状況ではなかったと思われる。

Q. 炉水位が+450mmは妥当な水位か。

A. 炉水位+450mmや+550mmが下がっているものなのか、妥当な水位かは確認させていただく。

Q. 3月11日21時30分の1号機の炉水位が+450mmになった時点で原子炉圧力容器が損傷していたことを示すのではないか。

A. 水位は保たれているので、その時点で大きな損傷はないものと考えている。自動停止の際は炉水位を+450mmで保てば問題なく、それ程異常な数値ではない。12日7時以降、水位が下がっていることから、何かしらトラブルがあったものと思われる。

Q. 海水注入やベント操作が遅れたという指摘があるが。

A. 今後調査していく。

Q. 1号機CAMSデータで、100SV/h出ているが、計器の故障ではなく、仮にこれが本当の数値であれば、復旧作業にどのように影響するのか。

A. 仮にその数値があったとしても、現状は原子炉建屋で作業を実施していないため影響はないが、今後、建屋に入る際に少し影響する可能性はある。作業現場で線量を測定しており、現時点の作業では特に影響は出ていない。

以上